



MatriMix 溶液を用いたコーティング培養（二次元培養）

本製品は三次元培養用製品ですが、ゲル化しない程度にまでコラーゲン濃度を下げることによって、薄層コーティングが可能です。ご使用になられる培養容器や用途に合わせて適宜プロトコールを調整して下さい。以下は一例として、製品添付の取扱説明書「I. MatriMix 溶液の調製」に従って作製するゲル溶液と比較して、A液（DMEM, ヒアルロン酸/ラミニン E8 架橋物）とB液（炭酸水素ナトリウム）は5倍希釈、C液（コラーゲン溶液）は10倍希釈したコート液の調製方法になります。A液とB液は混合比率（A液：B液=9：1）を揃えたままで、より高い濃度でコーティングすることも可能です。但し、コラーゲンがゲル化する恐れがあるため、C液の希釈は10倍以上に設定して下さい。

(1) 冷やした滅菌水 840 μ L に C 液を 40 μ L を混合する。

※3液混合後のコラーゲン濃度は 0.2 mg/mL になります。

(2) A 液 108 μ L に対して、B 液を 12 μ L、希釈した C 液を 880 μ L の順番で氷上において混合して、コート液を調製する。

(3) 12 ウェルプレートの 1 ウェルあたりにコート液を 500 μ L 添加する。

(4) 37°C に設定した CO₂ インキュベーター内で 1.5 時間静置して、培養面をコートする。

(5) 常法に従い、必要量の細胞を準備する。

(6) コート液を除去した後、速やかに細胞を播種して、培養を開始する。

※ラミニン E8 が乾燥に弱いので、可能な限り短時間に操作を完了して下さい。